

第2回ふれあい自然観察会

トンボと友だちとなろう

佐野由輝（大網白里町）

日 時：2011年7月23日（土）9：30～12：30 天気：曇りのち雨

場 所：昭和の森、主催：千葉市環境保全課

参加者：38名（大人17名、子ども21名） 千葉市職員3名

担当指導員：山下美佐子、秋山俊夫、後藤菊子、小林義和、佐野由輝、花島伸美、
堀 泰洋、山田益弘

どんよりとした天候の中、4班に分かれ、トンボの観察会が始まりました。晴れていれば、青空の下、太陽の広場を飛び交うトンボを見ることができたのですが、気温も低く、風もあったためか、元気に飛んでいるトンボは見あたりませんでした。ならば、きっと、森の中でゆっくり休んでいるトンボがいるに違いないと、森の中に入って、木々の枝先をよく観察してみると、羽を休めているトンボがずらり。休んでいるところ申し訳ないが、少しだけ遊んでねと願いつつ、子どもたちがそーと近づき、網を振り下ろすと、見事にキャッチ。羽の模様、胸の模様で、トンボの種類を特定し、オスとメスの違いを観察した後、再び逃がしてあげました。

最初は、たどたどしかった子どもたちのトンボを捕る技術も、何回か繰り返すごとに上達し、全員が難なく採れるようになりました。天候の関係で、トンボの種類は少なかったものの、赤とんぼの仲間であるノシメトンボ、コノシメトンボ、ナツアカネ、マイコアカネ、マユタテアカネの区別はできるようになりました。一口に赤とんぼといっても、たくさんの種類があることに、保護者の方々も感心していました。

中菖蒲田では、オニヤンマの羽化殻探し。あぜ道を歩きながら、オニヤンマがぶら下がりそうな草や低木を探していると、あっちに一つ、こっちに一つと見つかりました。そうしていると、偶然にも羽化したばかりのオニヤンマを発見。天候が悪く、羽の乾きが遅かったせいか、未だに飛び出すような様子もなく、じっと時が来るのを待っているようでした。興奮する子どもたちをなだめながら、静かにそっと観察をし、元気に飛び立ってくれることを祈りながらその場を離れました。最後に観察した指導員の話だと、無事飛び立つことができたようです。めでたし、めでたし。中菖蒲田では、数は少なかったものの、オオシオカラトンボやシオカラトンボを見つけることができました。

雨の心配もあったため、下夕田池に早足で向かい、水辺のトンボの観察を行おうと思ったのですが、まさに下夕田池に到着するかしないか辺りで雨脚が激しくなり、トンボどころでは無くなってしまいました。

トンボの観察は切り上げ、何とか雨をしのげる木の下や東屋に身を寄せて、トンボのクイズ大会を行いました。トンボの口はどうなっているのかやトンボの目はどうなっているのかなど、トンボの生態、形態に関するクイズを出し、今日観察したトンボを思い出しながら回答していました。雨は残念でしたが、そもそも、日本にトンボがたくさんいるのは、雨が多く、水辺が多いおかげ。雨の恵みに感謝しながら、観察会を終えました。